



新聞の一面で報道された記事見出しです。7月上旬に4年連続で大雨による災害が発生し、今年も大雨への注意を促す内容でした。

その指摘に呼応するように、7月3日の夜1時過ぎに、平塚市内の「金目川、鈴川沿い

で浸水被害の恐れがある」として『警戒レベル4の避難指示』が、7時過ぎには、「金目川で洪水による浸水被害が発生している可能性がある」と『警戒レベル5の緊急安全確保』が発令されました。皆さんのスマホに相次ぐ発令が伝えられたことと思います。長瀬のバス停の一部が、金目川の浸食で崩落する被害が発生しました。

○ 寺田縄防災会では、金田小学校の避難場所が開設されなかったため、ホットラインによる自治会員や要支援者の方々への安否確認の伝達を実施しませんでした。

最近自然災害の甚大化が指摘されます。事前準備と早め早めの避難行動を怠らないことが大切です。これまでの「防災ニュース」でお伝えしたように、新型コロナウイルスへの対処も必須です。避難即、小学校避難場所ではなく、親戚、知人宅そして2階のある近所のお宅に一時避難する(分散避難)ことが、ご自身の命を守り、避難場所での3蜜を避け、感染を防止するのに大切といわれます。平屋に住み大雨の時お困りの方の近く、2階建てにお住まいの方々、一時しのぎとして、誘いの手をさしのべる機会をおつくり頂けないでしょうか。ご配慮お願いいたします。

● 「金田小学校緊急避難場所 運営委員会」が開催され「マニュアル案」が発表されました。

内容は、昨年配付した「防災ニュース・第16号」でのお知らせとほぼ同一ですが、諸事項を確認いたします。(「・・・」: マニュアルの文言)

- ① 「避難所の運営は、避難所配備職員(リーダー以下5名の平塚市職員)が中心となる。必要に応じて、自治会等の協力をお願いします」
- ② 「避難場所の開設情報は、防災行政無線、緊急速報メール、ホットメールひらつか等により伝えられます」
- ③ 「コロナ対策のため体育館内の受入れ人数を減らした形での運営となります」
 - ・ 受入れ想定数は印字されていませんでした。質問へは口頭で、「市は25世帯以上の数は想定していない」との回答がありました。
- ④ 「各自の避難行動に対する適切な準備をしておく必要がある」等々 報告をいたします。

★★「防災ニュース」、「洪水ハザードマップ」を読み直してください★★

街頭消火器

寺田縄地域には、赤いボックスに収まった消火器が78基設置されています。



大きな火災を防ぐには、火災が起こり始めの消火(初期消火)が必須です。

燃え広がる前に火を消します。各ご家庭の備えとともに、いざの時使えるように、道路の端に設置されている「街頭消火器」の場所の確認をしてください。

(寺田縄自治会長 久光陽一、 防災会 片山興大)